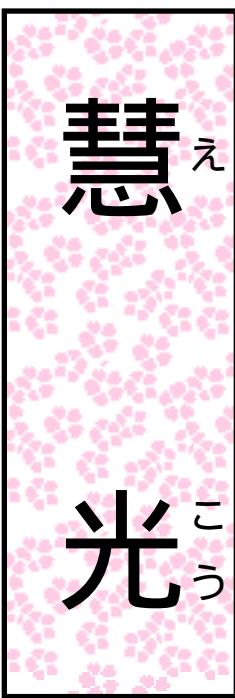




秋岡信介くん、未希子ちゃん児参式(七五三) (11月15日撮影)



金光寺寺報
第174号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

せいかつ なか ねんぶつ

生活の中で念仏するのでなく 念仏の上に生活がいとなまれる

法語の中で誡められている「生活の中で念仏」というあり方は、生活の論理を前提とし、その上で念仏申すがたです。生活が主であり、念仏申すことは従です。生活によってお念仏が左右されることはありますが、お念仏によって生活が問われることはありません。

一方、勧められている「念仏の上に生活がいとなまれる」あり方とは、お念仏を前提とし、その上で生活していくすがたです。お念仏が主であり、生活が従です。私たちの生活は、お念仏によって問われ続けます。

私たちの物事の受け止め方は、何事も自分に都合良く、見事なまでに仕上がっています。親鸞聖人はそのような私のあり方を「煩惱具足の凡夫」とお示しになりました。お念仏によって、阿弥陀如来のおこころに出会い、煩惱に振り回される自分のあり様を知らされるとき、おのず

と自らの愚かさを恥じる心が生まれます。お念仏申す身となっても私が煩惱具足の凡夫であることに変化はありません。けれどもそのような私に、煩惱に振り回された生き方をできる限り慎もうとする心が生まれるのです。

親鸞聖人は法然聖人のお言葉を次のように回想されています。

故法然聖人は、「浄土宗の人は愚者になりて往生す」と候ひし

私たちは、賢くなって阿弥陀如来の浄土に往生するわけではありません。親鸞聖人の回想からは、自らの愚かさを知らされることを通して、阿弥陀如来の救いの確かさ、あたたかさを受け止めておられる様子が窺えます。念仏の上でいとなまれる生活とは、そのようなものなのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

2016(平成28)年

1月 29日(金) 終日

2月 20日(日) 終日

10月、11月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2015年10月 4日寂 満54歳 延岡市青井今朝雄様
- 2015年10月 16日寂 満73歳 大石の内馬原満幸様
- 2015年11月 4日寂 満96歳 熊本市新原チ力工様
- 2015年11月 7日寂 満102歳 小切畑清原トミ子様
- 2015年11月 22日寂 満93歳 馬見原泉工三子様
- 2015年11月 26日寂 満91歳 芋の八重長野ミナコ様

ホームページ開いています。 URL http://konkhoji.jp/ 12月7日現在 アクセス数 76,654人

仏教用語豆辞典

沢庵

「お茶漬けサラサラ、たくあんポリポリ」日本人の食生活は多様化してきましたが、やっぱり、この味は忘れられませんね。

「たくあん」は、たくあん漬ともいいますが、この大根漬をなぜ、「たくあん」というのかについて、いろいろの説があるようです。沢庵和尚が漬けはじめたところからという説。貯え漬の転訛したものという説。沢庵和尚の墓の形が大根漬の重石に似ているところからという説。墓の形が大根漬の形に似ていたからという説などです。

なり、堺の南宗寺の住持。寛永六年(一六二九)紫衣事件で幕府と抗争し、出羽に配流。のち赦されて宮中で経を講じ、徳川家光の帰依を受けて、品川に東海寺を開きました。この高僧の名前が、漬け物の名前になりました。それでは、このたくあんで、もう一膳、いただきます。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇 PART-1 から)

住職ひとりごと

この年になると月日の経つのが早く感じます。新年のあいさつを交わしたのがついこの前のような気がしていましたが、もう師走十二月です。明年は五十九歳になります。まだ、六十歳になつていないのですが、慣例で還暦という行事を迎えるようです。こんなに早く還暦を迎えることとは思っていませんでしたので、とても驚いています。しかし、それ以上に確実に命終の 때가近づいていることに目をそむけてはいる自分がいることに驚かなくてはなりません。葬儀のご縁の度に「今日ともしれず明日ともしれず」と無常のことにわたりをお伝えしているのに、他人事にしてはいる私でした。十一月十八日夜、突然、締めつけおさまったのでした。短時間で明日目が覚めるかとも不安になりました。無事に目が覚め、当たり前のように目が覚め、目が覚めた感じがする。目が覚めた感じが普通であることがありましたが、後生の一大事に強く目を向ける。明年にしたいと思うことです。(住職 松井卓郎)

どうぞ報恩講に

前半は暖かく、後半は寒波
厳しい秋参り・恩講のご縁で
した。恩講最終日今月四日荒
谷地区では、時折、粉雪が舞

う状況でした。無事に全ての
恩講を終えることができ、十
月二十日から始めた宗祖親鸞
聖人の恩徳に報謝するそれぞ

れのお宅のお参りは、残り秋
参り二戸となりました。
いよいよ、今月十五・十六
日は当山の報恩講です。どう
ぞ、一年に一度の勝縁をお結
びいただきたく存じます。
秋参り・報恩講のお参りで、
お参りできないお宅には郵送
で、法語カレンダーをお配り
しました。明年の法語は『和

訳正信偈』のなかから選び抜
かれたお言葉が収録されてい
ます。お仏壇の近くでも結構
ですし、居間など目につきや
すい所でも結構です。ご利用
いただき、法味あふれるお言
葉を日々味わっていただけれ
ばと思っております。
報恩講ご参詣お待ち申し上
げます。

宗祖のお言葉

宗祖親鸞聖人が浄土へ還歸されて、すでに七百五十余年の歳
月が過ぎました。真宗各派の本山や諸寺院では、聖人のお徳を
讃嘆し、ご恩を報謝する宗祖七百五十回忌のご法要が厳修され
ました。五十年に一度というこの勝縁にお会いし、本山などに
参詣なさった皆様も少なくないのではないのでしょうか。各地で
勤められたこのご法要は、宗祖の恩徳が私たちの心に届いてい
ることを感謝する大切な機会となりました。

親鸞聖人のお言葉は、いまま光となつて、悩み多き私どもの
前途を照らしてくださいませ。とりわけ真宗のみ法を『正信偈』
(和讃)に集約して、日常生活の指針とする道を開いてくださつ
たことにはありがたいことです。『正信偈』(正信念仏偈)は、
『教行信証』の「行巻」の末尾に収められ、真宗の要義を六十
行百二十句にまとめた偈文です。一方、『和讃』は、平安時代
の終わり頃に流行した歌謡の一種である「今様」の形式を持っ
た歌で、それまでの芸能に比べ新しさをもっていたことから、
「当世風・冷風」という意味で「今様」と呼ばれました。親鸞
聖人は、「浄土和讃」「高僧和讃」「正像末和讃」を中心に、
多くの『和讃』を制作され、南北朝時代には、「三帖和讃」と

いう総称が用いられるようになりました。
宗祖のおつくりになつた『正信偈』や『和讃』を私たちが朝
夕お勤めし、その唱和を通して真宗の精髓にふれることができ
るのは、何と尊いことでしょうか。『正信偈』『和讃』の勤行に
よつて真宗が民衆のものになる機縁となりました。
「草は枯れる。真理の言葉は永遠に滅びることはない」とい
う古諺ながらに、宗祖のお言葉は、智慧のことば、仏智を顕
わしています。私たちの先輩は、その仏智のことばを鑑として
日々の生活を営んできました。ここに真宗門徒の生活史があり
ます。そしてさまざまな情報にあふれている現代、人知れず世間
知が主流となり、やもすれば私たちが、それに振り回されが
ちになります。改めて、宗祖のお言葉に仏智を聞く必要があり
ます。
真宗十派からなる真宗教団連合では、漢文で著された宗祖の
『正信偈』を、さらに現代の人びとにわかりやすくお伝えでき
るよう『和訳正信偈』を制定しました。昭和四十八(一九七三)
年に親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年の共同事業と
して制定されて以来、この『和訳正信偈』は、各派の共同勤行
として用いられてきました。本年のカレンダーは、その珠玉の
ようなお言葉のなかから精選し、収録しました。折々にご味読
たまわれれば幸いです。(法語カレンダー・裏面掲載)

法語の世界

〈原文〉

聖人(親鸞)の御流はたのむ一念のところ肝要なり。
ゆゑに、たのむといふことをば代々あそばしおかれ候
へども、くはしくなにとたのめといふことをしらざり
き。しかれば、前々住上人の御代に、御文を御作り候
ひて、「雑行をすてて、後生たすけたまへと一心に弥
陀をたのめ」と、あきらかにしらせられ候ふ。しかれ
ば、御再興の上人にてましますものなり。
(蓮如上人御一代記聞書 百八十八)

〈現代語訳〉

「親鸞聖人のみ教えにおいては、弥陀におまかせする信心
がもつとも大切なのである。だから、弥陀におまかせすると
いうことを代々の上人がたがお示しになってこられたのであ
るが、人々はどのようにおまかせするのかを詳しく知らなかつ
た。そこで、蓮如上人は本願寺の住職になられると、御
文章をお書きになり、念仏以外のさまざまな行を捨てて、
仰せのままに浄土に往生させてくださいと疑いなく弥陀にお
まかせなさい」と明らかにお示しくださいだったのである。だ
から、蓮如上人は浄土真宗の再興の上人といわれるのである
と仰せになりました。

二〇一五(平成二十七年)年 金光寺報恩講法要のお知らせ

日時	内容
十二月十五日	午前十時〜日中法要(上下参り) (九区・十三区・十四区地区) 午後七時〜速夜法要(お番)
十二月十六日	午前十時〜日中法要(中央参り) (十区・十一区・十二区地区)
講師	大分教区 岡組 蓮光寺住職 浄土真宗本願寺派布教使 和田 新吾 師
その他	お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本) をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要(午前十時から法要)
にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日
午後七時からの速夜法要にお参りください。
報恩講は、親鸞聖人のご命日を縁として、
浄土真宗の門信徒が一年に一度手次ぎ寺に
そろって参詣し、阿弥陀さまのみ教えに出
遇わさせていただく、**浄土真宗では一番重
要な法座です。**
是非、ご勝縁をお結びください。